

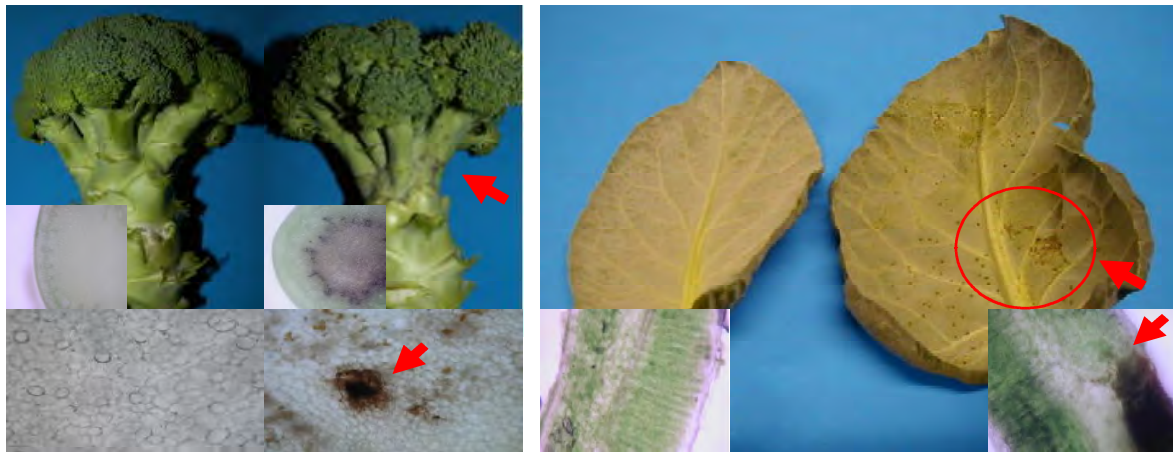
ブロッコリー花蕾黒変症の発現には カリ過剰が関係する

ブロッコリー花蕾黒変症の発現には、家畜糞堆肥等の多量連用による土壌中のカリ蓄積とべと病菌が関係します。カリ過剰はブロッコリー各部位の無機成分含有率の低下や植物細胞の褐変をもたらし、花蕾黒変症の発生を助長します。

現地圃場における土壌の無機成分含有量

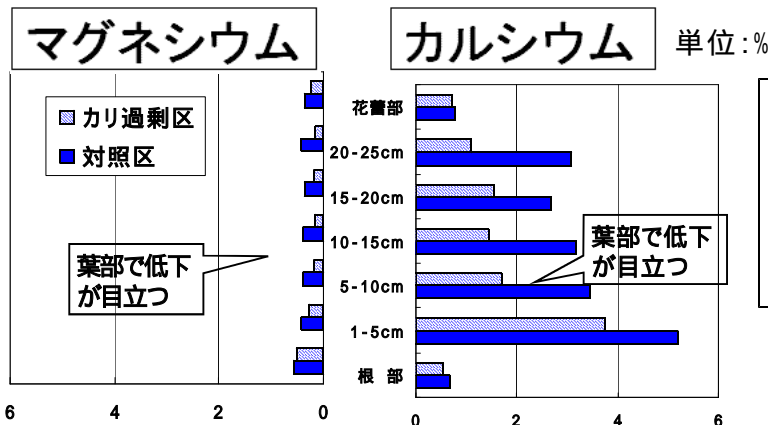
試験区	交換性塩基 (mg/100g)		
	K ₂ O	CaO	MgO
発病少圃場	54.3(100)	151.3(100)	26.0(100)
発病多圃場	112.5(207)	350.3(232)	60.7(234)

土壌調査の結果、花蕾黒変症の多発圃場ではカリ、カルシウム、マグネシウム含有量が発病少圃場に比べて約2倍高かった。



慣行施肥区 カリ4倍区 慣行施肥区 カリ4倍区
カリ増施がブロッコリー花蕾黒変症と新葉の褐変に及ぼす影響

べと病菌を散布すると、カリ過剰区では花蕾黒変症が発生し、花蕾周辺にある新葉の裏面に褐変が現れます。しかし、対照区には異常が認められません。



カリ過剰により、ブロッコリー各部位の無機成分含有率が低下します。特に、葉のカルシウムとマグネシウムは明らかに低下します。